

省エネ化の取組

全社LED化

工場(2016)
 水銀灯→LEDへ(54台) / 導入費用：500万円
 電力使用量：61,000kwh/年→43,000kwh/年(30%削減)
 CO₂排出量：31ton/年→22ton/年
 年間電気代：110万円削減
 工場内リース契約(5年)：毎年約96万円
 ※電気代1kwhあたり27円で計算

事務所(2019)
 蛍光灯→LEDへ(約90本) / 導入費用：50万円
 電力使用量：9,000kwh/年→2,600kwh/年(70%削減)
 CO₂排出量：4.6ton/年→1.4ton/年
 年間電気代：17万円削減

屋根遮熱塗装(2018)

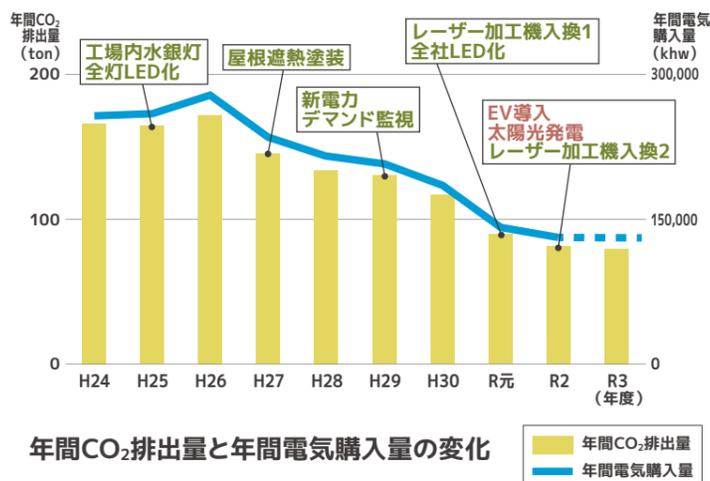
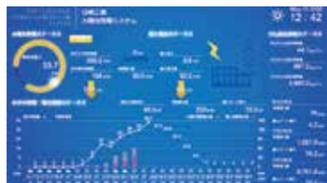
工場内空調の節電と労働環境の改善を理由に設置
 スポットクーラーの出力と稼働時間が減った
 導入費用：257万円
 夏場の工場の温度：38℃→30℃

省エネ型加工機械の導入(2019~2020)

1台約9,000万円×2台
 消費電力約50%、加工スピード2倍
 電力使用量：140,000kwh/年→70,000kwh/年(50%削減)
 CO₂排出量：71ton/年→35ton/年
 年間電気代：60万円削減

電力見える化(2020~2021)

デマンド監視装置の情報からの電気使用量、CO₂の削減量をリアルタイムで全従業員が各自の端末より確認できる
 毎月の使用料を公開し、作業時間の運営にも活用



再エネ導入の取組

社屋太陽光パネル設置(2020)

社屋屋根に設置
 自家消費型50kwh(20年保証つき)
 神奈川県の自家消費型太陽光発電補助金を使用し(330万円)、負担額670万円の費用で設置
 発電量：40,000kwh/年
 年間電気代：約96万円削減
 (電気代24円/kwh×40,000)
 CO₂排出量も抑制

太陽光パネル設備の新設

PPA・自家消費型発電設備・ソーラーシェアリングを複合した電力供給施設新設を計画中
 第2工場(横浜市鶴見区)：
 自家消費型発電設備
 さがみラボ(相模原市)：
 ソーラーシェアリング
 ※PPA：発電電力(再エネ)の有償提供
 ソーラーシェアリング：営農型太陽光発電

電気自動車(2019~2020)

HV、EVを導入
 導入費用：
 1,000万円(内40万円はCEV補助金)
 CO₂排出量：
 34ton/年→15ton/年(55%削減)
 年間ガソリン代60万円削減

蓄電池(2021)

緊急時に対応できる(BCP対策)
 13.5kwhの蓄電池を接続済

2030年までに完全脱炭素を目指す中で、広がる事業

落ち込んだ店舗、イベント関連の受注を補う事業に育てているところ



〇〇が進んでいる会社シリーズ ②

脱炭素

KIP会ビジネス・チャンス
 開拓研究会会員企業

日崎工業株式会社

〈会社概要〉
 設立：1967年
 所在地：川崎市川崎区大川町7-2
 主要事業：オーダーサイン・
 イベント造作・什器備品の
 設計・製作・施工
 TEL：044(366)7711
<https://www.hizaki.jp/>



町工場で挑む CO₂排出ゼロ

省エネ化で電気購入額は年間約400万円削減
 インフラにとられない事業継続を目指す具体的手法を大公開!



公共施設や店舗、イベント会場の大型サイン制作を行う日崎工業株式会社(川崎市)が、6年かけ挑戦してきた脱炭素。現時点での成果をご紹介します(左ページ)。

東日本大震災以降の自粛ムードで売上は5億円から2.5億円に。赤字経営の中、投資抑制や固定費削減といったやり繰りの1つが「省エネ化」だった。きっかけは、2016年に工場の水銀灯54台をLED化したことだ。導入費用は500万円かかったが、年間電気代を110万円削減、CO₂排出量も年間10トンほど抑制した。それらの数字が、こだわりの「ものづくり」をしてきた三瓶修社長に火をつけた。「全社員が楽しめる脱炭素化をするぞ!」



ソーラーパネルを備えたモビリティスペースの開発実績が、社長の人脈やSNS経由で新規事業を呼び込んでいる

…… 日崎工業はなぜ省エネ、CO₂排出ゼロに取り組んだのか? ……

●3.11の原発事故

(社長の両親は福島県富岡町と浪江町の出身)

●経費節約の取組の1つとして

2つの思い

- 1 原発事故の恐ろしさ、地球環境に配慮した企業活動を痛感
- 2 小さな町工場という1つの世界で、どこまでインフラにとられない事業継続ができるか社員みんなと挑戦してみよう